

厚生労働省 令和4年度子ども・子育て支援推進調査研究事業  
一時保護所職員に対して効果的な研修を行うための調査研究

## 学習・遊び

他者とのコミュニケーションや社会性に係る子どもの発達の傾向について理解し、子どもとのコミュニケーション又は子ども同士のコミュニケーションの支援に役立てること目的とする。

# 目次

---

【再確認】生活面のケアにおける基本的認識	2
【再確認】レクリエーション（遊び）企画・実施における基本的認識	3
【再確認】教育・学習支援における基本的認識	4
生活の中での学び(幼児期の学び)	5
遊びを通じた学び(幼児期の学び)	6
小学校、中学校、高校での学び	8
学びの動機づけ	9

## 【再確認】生活面のケアにおける基本的認識

- 一時保護所では、子どもたちが一時保護所での生活を通して徐々に生活習慣を身に付けられるように支援します→生活を通じての学びを支援します

### 原則

- 生活面のケアは子どもの精神的・身体的状態、他の児童・児童集団との関係性、嗜好、文化・慣習に合わせて、洗面、排せつ、食事、学習、遊び等毎日の生活全体の場面で行います。
- 子どもたちが一時保護所での生活を通して徐々に生活習慣が身に着けられるように支援することが重要です。

### 幼児に対する保育

- 情緒の安定、基本的な生活習慣の習得等に十分配慮して行います。

### 無断外出等の問題のある子どもに対して

- その背景要因を丁寧に探り、その子どもが抱える問題解決を最優先にした上で、子どもの心に寄り添った生活面のケア及び必要な指導を行います。

## 【再確認】レクリエーション（遊び）企画・実施における基本的認識

- 子どもの年齢、希望を考慮してスポーツ活動、室内遊戯等の遊びを企画・実施し、遊びを通じた活動的な気持ち、活動的な思考の獲得の支援を行うことで子ども個人の健康と幸福を高める手助けをします。

### 原則

- 入所している子どもの年齢を考慮の上、卓球、野球、バドミントン、バスケットボール等のスポーツ活動及びゲーム、創作活動、読書、トランプ、将棋、テレビ、ビデオ等の室内遊戯等を計画し、子どもの希望に応じて参加させるよう配慮します。
- 可能であればレクリエーションの企画に子ども自身が参加する機会を設けます。
- 必要に応じ、事故防止に留意しつつ野外活動を実施することも子どもの安定化等に有効です。
- なお、レクリエーション内容が身体的・認知的な負荷がかかりすぎる活動だった場合や、微細運動が要求されすぎる場合、学習性無力感を強めてしまうおそれがあるため注意します。
- 子どもの権利条約第31条において、子どもは休んだり、遊んだり、文化芸術に参加する権利を持つとされていることからそうした機会を確保することが重要です。
- レクリエーション（遊び）は活動的な気持ち、活動的な思考、活動的な生活を与え、個人的な健康と幸福を高める手助けとなります。

## 【再確認】教育・学習支援における基本的認識

子どもの状況や特性、学力に配慮した教育・学習支援を行い、子どもの就学機械の確保に努める。「わかる」という体験から徐々に自信と学習へのモチベーションを育みます。

### 原則

- 一時保護している子どもの中には、学習をするだけの精神状況にない、あるいは授業を十分に受けていないために基礎的な学力が身につけていない子どもがいます。そのため、子どもの状況や特性、学力に配慮した支援を行うことが必要です。
- 学習を通じて「わかる」という体験をさせること、その体験を通じて少しずつ自信をつけさせ、少しずつ学習へのモチベーション・基礎学力を育むことも意識します。

### 在籍校との連携の検討

- 支援に当たっては、必要に応じて子どもの在籍校との連携も視野に、どのような学習を展開することが有効か協議するとともに、取り組むべき学習内容や教材などを送付してもらうなど、創意工夫した学習の展開を検討します。

### 「できるようになってきた」に気づかせる小さな工夫

- 例えば算数や数学であれば回答の正解・不正解ではなく、途中式を書こうと試みた・筆算を試みたといった試行錯誤の形跡、回答は間違えていてもプリントを全部埋めた努力の形跡、昨日よりも長く机に向かった事実をとらえて褒めることで、子ども自身にそのチャレンジと小さな前進の価値に気づいてもらい、モチベーションを刺激するといった工夫を試してみるのも一考です。

# 生活の中での学び(幼児期の学び)

## しつけ—基本的生活習慣の獲得—

- 基本的生活習慣は、日常の生活に欠くことができない社会的なルールに従った習慣であり、生まれてから人間として発達していくために欠かせないものです。
- 最近子どもが就寝する時間が遅くなる傾向があると指摘されており、このような状態では朝起きてからもぼーっとしたり、友人に対して攻撃的になったりする現象が見られることもあります。また、食べ物の好き嫌が多く偏食になっている子どもたちも、骨の成長に必要な栄養分が十分に取れなかったり、よく泣いたり落ち着きがなかったりして安定した情動面での発達に影響が出ている場合もあります。
- まだ小さいうちに基本的な生活習慣をしっかり身に付けることが、その後の人生の発達・成長にとって重要な課題となります。

## 基本的生活習慣の自立の目安

	食事	排泄	睡眠	着脱衣	清潔
6か月ごろまで	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ミルク以外の味に慣れる</li> <li>• スプーンから飲むことに慣れる</li> <li>• 離乳が始まる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• おむつを取り替えてもらって心地よさを感じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 生活リズムに沿って、眠い時には安心して十分寝る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 清潔でゆったりとした衣服に、また気温・湿度・健康状態に合わせて衣服の調節してもらい、その心地良さを感じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• おむつその他の意の回りのものを清潔に保ってもらい、清潔の心地よさを感じる</li> </ul>
6か月～1歳3か月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 喜んで食べる</li> <li>• 離乳食から徐々に幼児食に移行する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 便器での排泄に興味をもつ</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>• 衣服の着脱に興味を持つ</li> </ul>
1歳3か月～2歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 様々の食品の形態に慣れる</li> <li>• スプーン、フォークをもって自分で食べようとする気持ちが芽生える</li> <li>• コップを持って飲める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 便器での排泄に慣れる</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>• 落ち着いた雰囲気ですら寝る</li> </ul>	
2歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 楽しんで食事・間食をとる</li> <li>• 自分で食事をしようとする気持ちが育つ</li> <li>• スプーンと茶碗を両手で使う</li> <li>• 食前食後の挨拶をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分から又は促されてトイレに行く</li> <li>• 見守られて自分で排泄する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 簡単な衣服は一人で脱ぐ</li> <li>• 手伝ってもらいひとりで着る</li> <li>• 靴下をひとりで脱ぐ</li> <li>• クツをひとりで脱ぐ</li> <li>• 防止をかぶる</li> </ul>		

(参考) 中澤潤 編「よくわかる教育心理学」,ミネルヴァ書房,2008,pp16-17

# 遊びを通した学び(幼児期の学び)

- 幼児期の活動の中心は遊びであり、幼児は遊びを通じて認知発達と学びを深めていきます。

## 遊びを通じた発達

### 遊びの意義

- **遊びは想像力の質、創造性、順番を守るスキルなどを高め、認知的・社会的成長を促進します。**
- 特に幼児の遊びには幼児の成長や発達にとって重要な体験が多く含まれています。
- **支援者からすれば子どもの遊びの観察を通じて、子どもへの個別的な関わりを考える際に有用となる性格特性を見出すこともできます**

### 見立ての発達(幼児期)

- 例えば、木の葉を木の葉としてみるだけでなく、器として、お金として、切符として見ることをするようになります。
- 砂が水を含むと固形状になり、さらには液状になることを発見し、その状態の変化とともに、異なった関わり方を発見します。
- そしてこれらの意味や関わり方の発見を、上記の様な体験を出発として幼児はさらに思考をめぐらし、想像力を発揮して重ねていきます。

### 社会的スキルの発達

- 遊びを通じた友達との関わりが深まっていくにつれて、時には自分の思いや考えを意識して表現し、相手に伝えたり、互いの考えを出し合ったりすることによって言語能力や相手の立場に立った思考、社会性・道徳性が培われます。
- こうした社会的スキルの涵養は幼児期だけに限定されず、大人でも「遊び」から得られるものです。

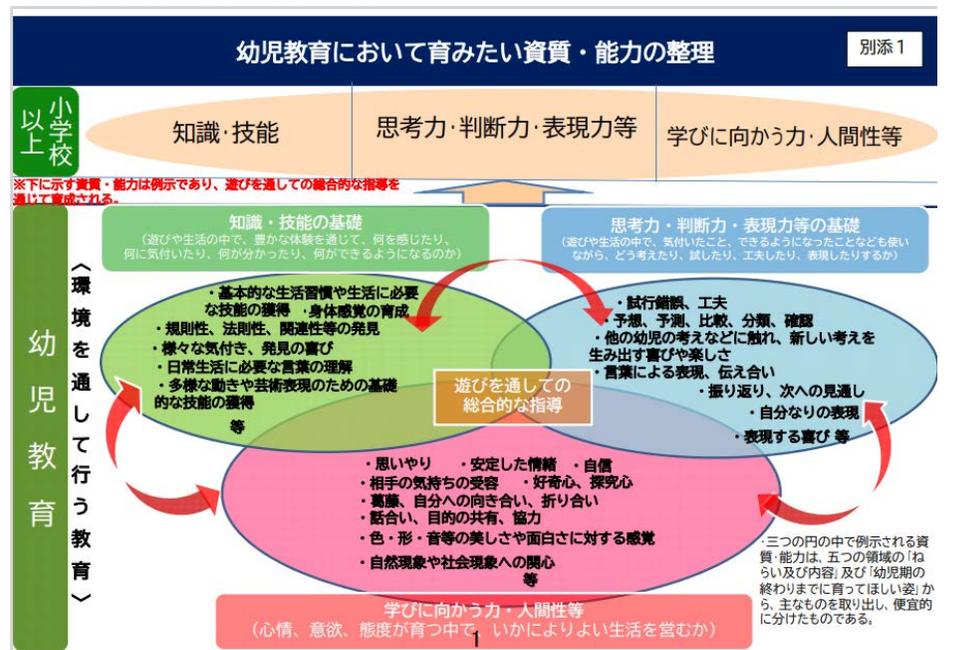
(参考) 文部科学省「幼稚園教育要領解説」(平成30年2月)

(参考) 中澤潤 編「よくわかる教育心理学」,ミネルヴァ書房,2008,pp18-19

(参考) マーク・スミス 他「ソーシャルベタゴジから考える施設養育の新たな挑戦」,植原真也 監訳,明石書店,2018,pp143-145

## 遊びを通じた指導により目指すところ(特に幼児期において)

- 幼児は遊びを通じて見立ての力(想像力・思考力)や社会的スキルを培っていくわけですが、こうした面を捉えて、遊びを通じて幼児期の終わりまでに育みたい資質・能力として、文部科学省の中央審議会は「知識及び機能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の3つを掲げています。
- いずれにせよ、遊びは子どもの発達を育んでいくに当たって重要なものであることを認識することが必要です。



(参考) 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(2018)の資料より

# (参考) 幼児期において育みたい資質・能力の整理

別添1

## 幼児教育において育みたい資質・能力の整理

小学校  
以上

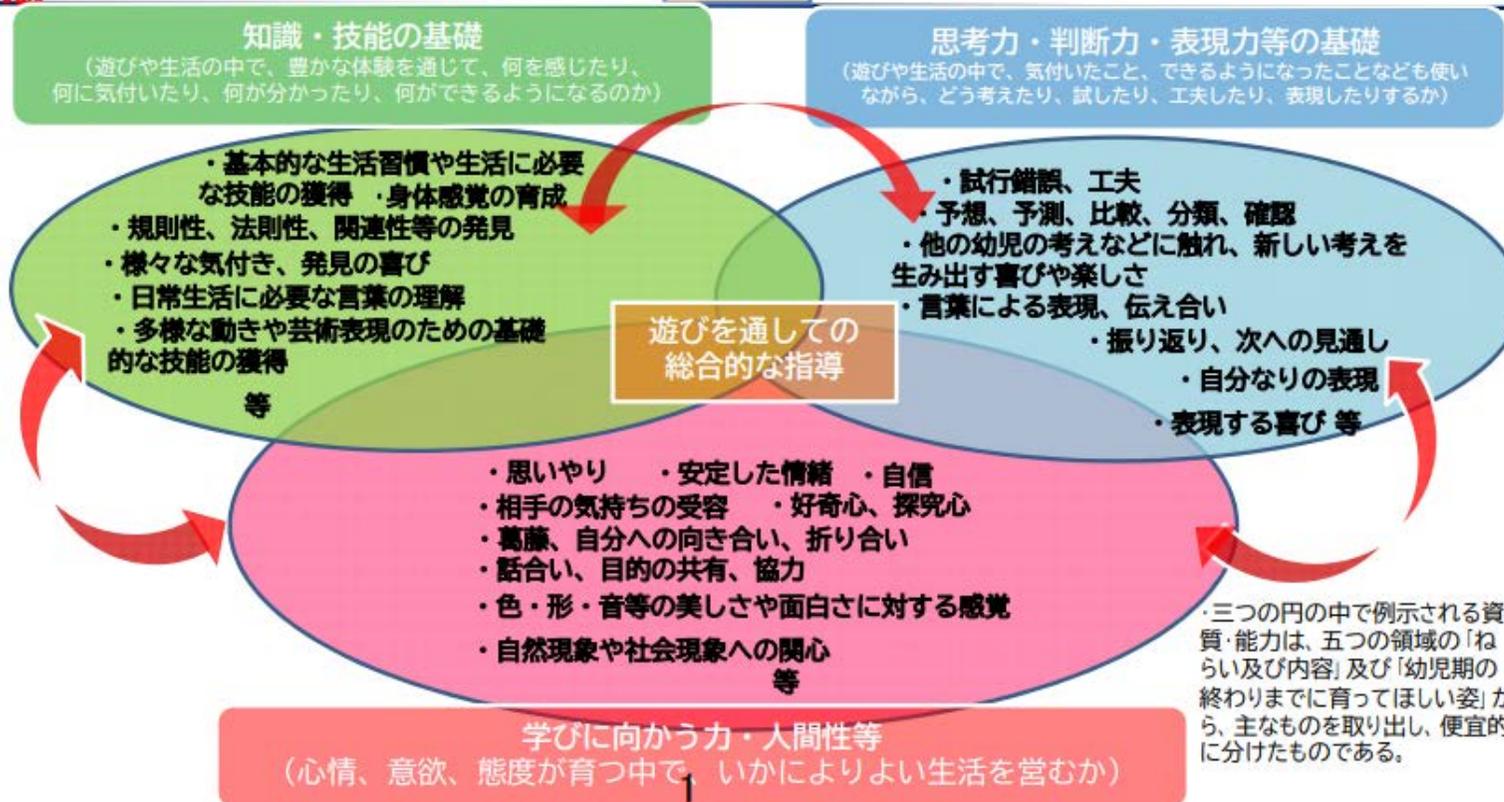
知識・技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・人間性等

※下に示す資質・能力は例示であり、遊びを通しての総合的な指導を通じて育成される。

環境を通して行う幼児教育



(参考) 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(2018)の資料より

# 小学校、中学校、高校での学び

## 小学校での学び

### 各教科の学びの内容

- 小学校での学びの内容は学習指導要領によって定められていますので、学習支援に当たっては、必要に応じて参照し、どういった内容のドリルに取組ませるか参考にするとよいでしょう。
- 小学校教育の到達目標は、「各教科、道徳、外国語活動及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること」です。

### 児童期の知的発達

- 児童期前期はピアジェの発達段階の具体的操作期に当たり、目で見たり、聞いたりすることができる具体的なものについて、筋道を立てて考えたり、実際の問題に取り組むことができるようになります。
- 児童期後期になると形式的操作期に移行し、抽象的な思考ができるようになります。

### 児童期の学習への動機づけ

- 学年が上がるにつれ、学習意欲を失い、教材や学習材を前にしても無気力になったり、新規なものを目にしてもあまり関心を抱かなくなったりします。
- この原因の1つとして、期待やコンピテンス（有能感とも言われる。やればできるという自分に対する自信のこと）が学年に上がるにつれて低下する現象がみられることが挙げられており、クラスのなかでの他者との比較や、評価を通してのみずからの学力の客観的指標を手にするのが背後にあると言われる。

## 中学校での学び

### 理数科離れとアカデミックコンピテンスの低下

- 中学校に環境が移行し、児童期から青年期に代わるこの時期は理数科離れがよく見られます。また学年が上がり学びが深化していくにつれ、全体的にアカデミックコンピテンス（学校の授業はよくわかるかなどの学びに関する自己評価）が低下していく傾向にあります。
- 国際教育到達度評価学会が小4と中2を対象として実施した国際数学・理科教育動向調査の2019年調査では、数学や理科の学習に対する意識や行動に関して、日本の子どもは算数数学については「楽しさ」「将来における有用性」の項目において、理科については「将来における有用性」の項目において国際的にも低い水準にあることが分かっています。

### 部活

- 学年や学級の所属を離れ、共通の興味や関心を持つ生徒が組織する部に入部し活動する中で、先輩－後輩の人間関係を学びます。
- 上級生になると部長や副部長など責任ある役職に就く者もあり、3年間の部活動での活躍がその後の進路に大きな影響を及ぼすことも少なくありません。

## 高校での学び

- 自分の今後の生き方（自分が将来どんな仕事をし、どんな一生を送っていくのか）に引き付けた学びが強く意識されるようになります。

（参考）中澤潤 編「よくわかる教育心理学」,ミネルヴァ書房.2008,pp20-27

# 学びの動機づけ

- 学習支援については、子ども自身の学ぼうとする動機を引き出すところがスタートラインとも言えます。
- ここでは教育心理学を参考に、どうやってやる気を出してもらうかについて把握します。

## 外発的動機付け

- 例えば、良い成績をとったら表彰状を渡す、30分机に向かって勉強出来たらシールをあげるというようなやり方で児童・生徒を勉強に向けるやり方を外発的動機付けと言います。
- 褒めたり罰したりすることで学習を進めることを「強化する」と言い、強化するために与える褒美や賞賛、罰や叱責のことを強化子と言います。
- 最初の内は一定の効果はありますが、報酬や賞賛がなくなる場合には逆に動機づけが高まらなくなり、学習に向かわなくなるおそれがあります。そのため、次に述べる内発的動機付けにうまくシフトしていくことを念頭において外発的動機付けを実施していく必要があります。

## 内発的動機付け

- 興味、関心、好奇心、それに取り組む面白さやチャレンジ精神によって高められる動機づけを内発的動機付けと言います。
- 興味、関心、好奇心、やってみようという気持ちが発生する源泉は自己効力感にあると思われれます。そのため、内発的動機付けを高めるためには、子どもの自己効力感に働きかけていくことが必要です。

## 外発的動機付けから内発的動機付けへのシフト

- 外発的動機付けの元物事に取り組ませるなかで、達成感を子どもに感じさせながら、達成感の蓄積を子ども本人も認知できるよう見える化することで自己効力感を高め、子どもはその自己効力感を原資に自らを動機づけし、また取組に向かっていく。。。という循環を作りたいところです。
- 外発的動機付けから内発的動機付けへのシフトについてカギとなるのは「達成感の蓄積とその見える化」にあると考えられるところ、その実践例としてひとつ参考になりそうな『ほめと達成感を可視化する「ほめクリップ」』の例をご紹介します。

### step1

- 1 d Lの容器とクリップを用意します
- 容器は子どもにわたします

### step2

- 机に向かうことができた、昨日できなかったことができた、プリントを全部埋めることができた、などのチャレンジと小さな前進をとらえて褒めるとともに、クリップを子どもの容器に入れます。

### step3

- 容器にたまったクリップは、子どもの前進の証であることを子どもに伝えます。
- 最終的にクリップなしでも学習に取り組めるようになることを目指します。

### point

- クリップは子どもの頑張りの証であることを説明します
- クリップ容器がいっぱいになったらレクリエーションを企画するなどの報酬を用意します
- クリップを入れる数や入れるタイミングについては、子どもではなく職員が主導権を握ります。
- この活動の目的は、「勉強をさせる」ということ以上に、「自己効力感を高めていく」というところにあることに留意します。

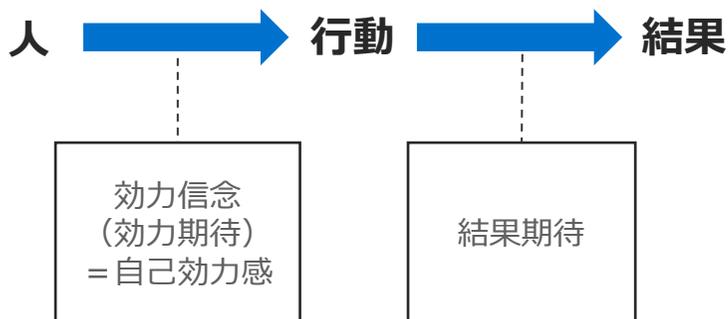
(参考) 中澤潤 編「よくわかる教育心理学」,ミネルヴァ書房.2008,pp34-37  
(参考) 阿部真也「心理テクニックを使った! 戦略的な学級経営」,東洋館出版社.2020,pp74-77

# (参考) 効力信念と結果期待/動機づけの原因帰属

## 効力信念と結果期待

- カナダの心理学者バンデューラは、ある具体的な行動がある結果をもたらすというコントロール可能性（結果期待（〇〇という結果が得られるという見込み））とその人自身が実際にその行動を起こすことができるということ（効力信念(自己効力感：自分は実行できるという感覚)）の2つについて、動機付けにとって特に重要なのは効力信念の方であると指摘しました。

### 効力信念と結果期待のモデル



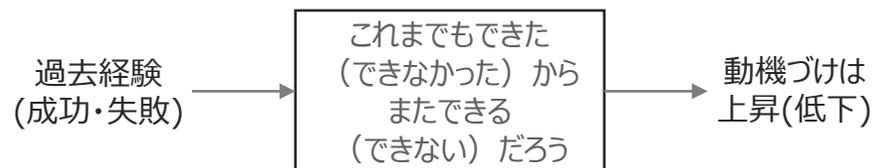
### 効力信念と結果期待の組み合わせから規定される様々な動機付けの状態のモデル

		結果期待	
		低	高
効力信念 (自己効力感)	高	抗議、不平の申立て、状況を変える、など	生産的な活動、向上心の高揚、自分に対する満足感など
	低	あきらめ、無気力	自己評価の低下、意気消沈など

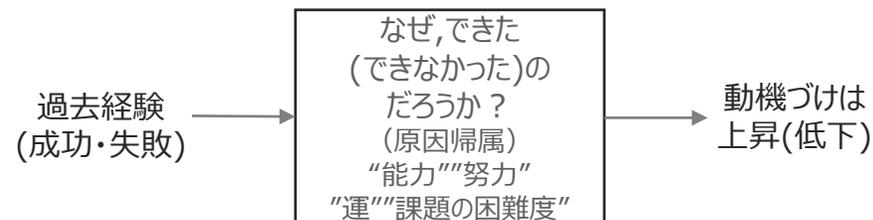
## 動機付けの過去帰属・原因帰属

- アメリカの教育心理学者ワイナーは、過去の失敗や成功の経験の原因を考える原因帰属によってその後の動機づけの高低が決まる仕組みに着目し、動機付けの帰属理論と言われる理論を展開しました
- 人は何かに取組んで成功したり失敗したりした後に考える原因は多くの場合、「能力」「努力」「運」「課題の困難度」に求めるとされます。

### 動機付けの過去帰属



### 動機付けの原因帰属



※成功や失敗の原因を努力に求めるのが動機づけを高める効果が最も大きいと史料されます

(参考) 中澤潤 編「よくわかる教育心理学」,ミネルヴァ書房,2008,pp42-43

## ● 参考文献

---

- 厚生労働省「一時保護ガイドラインについて」子発0331第4号 令和2年3月31日
- 中澤潤 編：よくわかる教育心理学. ミネルヴァ書房. 2008
- 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（2018）
- 文部科学省「幼稚園教育要領解説」（平成30年2月）
- マーク・スミス 他：ソーシャルペタゴジーから考える施設養育の新たな挑戦. 梶原真也 監訳, 明石書店.2018
- 阿部真也：心理テクニックを使った！ 戦略的な学級経営,東洋館出版社.2020